

新座市長 並木傑 様

「複合施設」に「男女共同参画推進プラザ」の設置を求める要請書

市政運営に対する日頃のご尽力に敬意を表します。

さて、今年3月末に「にいざ ほっとぷらざ」（新座市生涯学習センター、新座市男女共同参画推進プラザ）が廃止されました。しかし、数年後に東北コミセンを複合施設（以後「複合施設」という）に改修すると聞き及んでおります。私たちは下記の理由により、「複合施設」には是非「男女共同参画推進プラザ」を復活・設置して下さるようお願いいたします。お忙しいところ恐縮ですが、9月末日までに、文書回答をお願いいたします。

なお、この「要請書」は、報道関係者に送付いたします。また、インターネット上でも公開する予定があることを申し添えます。

<理由>

新座市男女共同参画推進プラザは、男女共同参画に関する意識啓発や知識習得とともに、男女共同参画の視点で地域の諸課題解決に向けて活動する場です。

新座市は、国が1999（H11）年に「男女共同参画社会基本法」を成立すると、翌年2000（H12）年に「新座市男女共同参画推進条例」を制定（埼玉県内自治体で最初）し、2001（H13）年に「男女共同参画都市」宣言を発し、2002（H14）年に男女共同参画推進プラザを開設しました。

そして、昨年2月の市議会議員選挙で女性議員の比率が46.2%と埼玉県ではトップ、全国でも3位のランキングになりました。新座市が埼玉県内は勿論、全国的にも先進的な「男女共同参画」政策・状況であることを私たちは誇りに思っています。

ところが、昨年からのコロナ禍のもと、全国的に、DV相談の増加や女性の失業増、女性の貧困（子どもの貧困）など女性をとりまく問題が浮彫りとなりました。女性の自殺者数の増加も深刻です。新座市も例外ではありません。

これらの女性をとりまく諸問題の解決は、政策課題として議会で審議決定され、継続的に取り組まなければならないと思います。そのため、諸課題・問題の解決に向けて活動する場が必要です。

このように、男女共同参画推進プラザの重要性は、以前にもまして高まっています。新座市の先進的な「男女共同参画」政策を維持・発展させ、時代の要請に応じていくためにも「複合施設」に「男女共同参画推進プラザ」の設置を強く求めます。以上

2021年9月6日

にいざジェンダー平等ネットワーク、働く女性の会、自分探しの会、性と子育てを考える会、新座市民主教育をすすめる会、こーぷみらい・新座市委員会、新日本婦人の会・新座支部、新座母親連絡会

連絡先：にいざジェンダー平等ネットワーク

Tel: 048-478-6724（谷森）